新しい大阪へ

さらば維新政治

大阪市分割解体を考える市民の会世話人　中野雅司さん

市民の手で良い街にせな

住民投票の運動が今までの運動と違ったのは、市民一人ひとりがいろんな形で参加し、自分にできることをやっていたことでした。

市民と議会接近

運動をしている中で、市民と議員の距離が近くなったなと感じました。これを生かさないといけない。議会のことを議員に任せるだけじゃなく、市民も一緒になって考えていかないと、維新のような新自由主義の流れは終わらない。党派や思想は関係なく、市民感覚でどういう大阪がええねんと話し合える場、市民と議会が一体となって、新しい大阪を考えていける場が必要だと思います。

住民投票後の報道でひどいなと思ったのは、今までほとんど「大阪都」構想について報道しなかったのに、急に「シルバーデモクラシー」とか「守旧派が改革をつぶした」と言い始めた。僕らは改革が嫌で反対したんじゃなく、中身が詐欺だったから反対したんです。その肝心な部分をメディアは明らかにしていない。協定書の数字を見たら、それができないことははっきりわかるはずです。メディアはちゃんと検証せえよと思うんです。

もし「都」構想をやったとしても、大阪は力がなくなって、財政が厳しい五つの特別区ができるだけなのは目に見えていました。だから反対したんです。それを新聞もテレビもわかっていない。今回、大阪のメディアが劣化していることがよくわかりました。

やっぱり、市民が真実を知れる場所が必要です。市民も最低限知らなあかんことがある。市民が真実を知るにはどうしたらいいのかが、今後の大きな課題になってくると思います。

視野広げないと

そのためには、市民がレベルアップしないといけない。知識だけじゃなく、視野を広げないといけないんです。自分にとって損か得かだけで考えていたら、大阪全体がよくなるための提案はでてこない。市民が視野を広げて、どうしたら大阪はよくなるかを討議しないとあかんと思うんです。

それから、府市の職員基本条例と教育基本条例を早くなくさないといけない。人間が本来持っている力を引き出すために、心の豊かさを養うのが経営です。でもこの条例は管理をするためのものです。まったくの正反対です。

府の職員と話をしても、「府民の顔を見て仕事をしたいけど、上司の顔色をうかがってしまう」というんです。本当に殺伐とした組織になってきてるんですよね。それでは行政はよくならない。やっぱり、悪いものは一掃して、市民の手で新しく良いものをつくっていかなあかんと思います。

（聞き手　笹川神由）